

教室だより

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1

TEL : 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) FAX : 4117

http://kanai-es.sado.ed.jp E-mail : skotoba@sado.ed.jp

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室

令和2年6月8日

第 868 号



人気アニメの影響か、お楽しみ活動でチャンバラごっこをすることが増えました。プラスチックの刀を使うのですが、子どもたちはみんな、私が本当の痛みを伴わないように、力を加減しながら刀を扱っています。

童心にかえり、子どもたちと大笑いしながら楽しんでいきます。

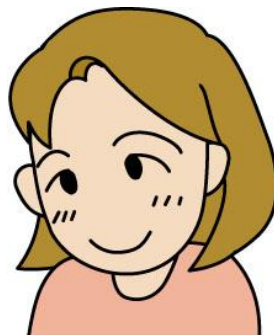
言葉の伝え方

新潟県中央福祉相談センター 相談判定課
主査 菊崎 美生

今年 4 月に佐渡に転勤となり、久しぶりの佐渡そして児相勤務に懐かしさや楽しみ、不安、緊張、いろいろな気持ちがあります。

これまでの職務の中で関わってきた子どもたちは、自分の気持ちを表現することが苦手で、「普通」「おかつく」「イライラする」等の言葉しか出てこないことがよくありました。本当は+の気持ち、-の気持ち、±の気持ちが入り交じって隠れているはずなのに……。そして、たいてい「どうせ大人は分かってくれない」「何を言ってもムダ」と諦めてしまいます。子どもの福祉に携わる者として、これほど悲しい言葉はありません。

今年は、マスクをして話をする機会が多く、相手の気持ちを表情から読み取ることも難しくなっています。だからこそ、発せられた言葉の奥にある本当の気持ちに気づけるように、そして、私の気持ちも伝わるように、正しく言葉を使っていきたいと思います。日本語には 100 種類以上の気持ちを表す言葉があるそうなので。



「ありがとう」っていいね！

友達や先生に注意されたことを素直に聞くことが苦手で、きつい言葉で言い返したりすることの多い A さん。頭では良い行動を理解しているのに、他の人に言われると行動できないようです。ある日の給食でおかわりをしたかった A さんは、「他におかわりしたい人いますか？」と尋ねることができました。先生はすかさず A さんに、「みんなに聞いてくれてありがとう！」と褒めました。すると、先生の「他の人が食べ終わるまで待ってね。」のアドバイスに素直に応じて、怒ったりすることなく、適切に待つことができたそうです。何気ない会話のようですが、A さんにとって、「ありがとう」はものすごく効き目がありました。担任の先生は、普段、注意などに応じることが難しい A さんがスムーズに行動できたのは、「ありがとう」と言われて認めもらったことの効果だと実感したそうです。

「ありがとう」と言われてうれしいのは A さんばかりではありません。私も、「ありがとう」の言葉に、自分が認められていることを感じ、とてもうれしくなります。

「マスクをしてくれてありがとう」「手を洗ってくれてありがとう」等々。当たり前なことにも「ありがとう」と言うことで、その人を大切に思っていることや、その行動を大事にしているということが伝わります。 (香遠)



親の会コーナー



親の会会長挨拶

今、できることを

親の会 会長 高橋 美由紀

昨年に引き続きよろしくお願ひ致します。会員の皆様には、親の会の活動にいつも御理解・御協力をいただき感謝申し上げます。今までに経験のない長期の臨時休校や新しい生活様式での学校生活など子どもも親も戸惑う事が多いです。親の会の活動においても総会と第1回学習会を中止し、今後の活動も状況をみながらの決定となります。そこで今年度は学習会に代わる活動を検討しているところですので、後ほど改めてお知らせ致します。

みんなで未来の子どもたちのために、今できることをやってみませんか。役員一同、今年度の活動が次への第1歩になる事を願っています。例年とは内容の違う1年になりますが御理解いただけますようお願い申し上げます。

お知らせコーナー



7月の夏季言語検査について

夏季言語検査は、保育園・幼稚園年長児を対象にした言語検査です。昨今の新型コロナウイルス感染症に関わる状況から、今年度は希望する園のみを対象に行います。園で実施しない場合でも、個別の相談に応じますので、佐渡ことば・こころの教室まで御連絡ください。

「ことば・こころ」のコロナ対策

<職員が行うこと>

- ① 教具を除菌します。
- ② 換気を行います。
- ③ 必要に応じて透明なついたてを使用します。

<来校者へのお願い>

- ① 来校時のアルコール消毒
- ② 指導前・指導後の手洗い
- ③ マスクの着用



心配なことは、遠慮せず職員までお伝えください。

ことば・こころ応援団



第2回目のことば・こころ応援団は、杉坂芳文 様（元教室担当、前佐渡市立加茂小学校長）です。杉坂様は、ことば・こころの教室の担当を離れてからも、当教室の学習会での講師を引き受けてくださったり、50周年記念事業でも協力して下さったりしています。この春から新しい事業を立ち上げるとお聞きしましたので、今回、ぜひそのことを御紹介いただきたいと思い、お願いしました。

新しい支援事業に取り組んでいます

一般社団法人「ぱすてるるーむ」代表

杉坂 芳文



今年の3月に退職し、現在は、百姓（米、柿）をしながら、子ども、保護者、その支援者を支援する組織を二つ立ち上げ、活動を始めています。

一つ目は、個人の事務所として、一般社団法人「ぱすてるるーむ」を立ち上げました。二つ目は、佐渡市教育委員会社会教育課「家庭教育支援事業」として「佐渡市家庭教育支援チーム【ぱられるわーど Cafe】」を組織し、今年3月に文部科学省に申請しました。先日、6月1日に登録されたとの連絡を受けたばかりです。

この二つの組織は、子育てについての悩みから、障害、貧困等の問題をかかえ困難のある家庭における悩みまで、幅広い子育ての悩みについて、子ども、保護者の支援を行うことを目的とし、その支援者（保育園、学校等）の支援も行うものです。家庭（自宅・職場）や公共機関（公民館、保育園、学校等）での教育相談の他、具体的な指導（アドバイス）等もあります。詳細については、決まり次第、関係各所にお知らせいたします。